

令和5年度 第13回

風雅を楽しむ春の集い

日時 令和5年4月30日（日）午後13時開会

会場 土佐市複合文化施設”つないで”
土佐市高岡町乙3451-1

TEL088-852-2111

鵬翔流吟友会 理念

鵬翔流吟友会 会詩

千詩万詠して心身を磨き

古今の風雅に親しみ遊びては

花鳥風月を友とし天恵に謝す

先人古哲の精神に学んでは

礼と節とを以つて人間陶冶に努める

自ら心魂洗い浄めて

真善美全き世界を求むるは

是、愛と誠の鵬翔会なり

提携ていけい 師友しゆう 鷗盟おうめい を結び

偏ひとへ に 詩歌しいか を 探さぐ っ て 妙聲みょうせい を 琢みが く

風雅ふうが の 精神せいしん 承継しょうけい を 誓ちか い

更さら に 期き す 吟道ぎんどう 百年ひゃくねん の 誠まこと



ご挨拶

鵬翔流吟友会
会長 梶田鵬翔

色とりどりの花が競い咲く百花繚乱の好時節を迎え、四月からは愈々牧野富太郎博士を主役にした連続テレビ小説「らんまん」の放送が始まりました。

長い間のコロナ感染症禍も加わり疲弊している高知県もこれから活力と賑わいを取り戻せると期待されている方も多いと思います。

さて、過日は「仁渡川町総合支所」の二階ホールで初めて「春の集い」を開催させて頂くことが出来ました。地元の沢山の人達が我が事のようにご協力下さり、和やかに楽しいひと時を過ごさせて頂きました。偏に山中副会長のご尽力の賜物と深く感謝を申し上げます。

あれから、一カ月後の本日は、恒例の「風雅を樂しむ春の集い」を土佐市の複合文化施設「つないで」に於いての初めての開催となります。会員の皆様には何かと慌ただしくご負担をおかけしますが、宜しくお願い致します。

そして何よりも後援会会長様を初め、顧問の先生方、ご出演を賜りますご来賓の先生方には公私共に大変お忙しい中を万障お繰り合わせ頂き、ご来駕を賜り、華を添えて頂きます事に衷心より厚く感謝を申し上げます。

また、不慣れな為になにかと不行き届き失礼の段、多々あろうかと存じますがどうぞご寛容に宜しくお願い申し上げます。

最後に、本日も来場賜りました皆様のご健勝とご多幸を心よりご祈念申し上げます。甚だ簡単ではございますが、ご挨拶とさせて頂きます。

本日は誠に有難うございました。

大会係り役員

大会会長
 大会副会長
 大会実行委員会長
 大会実行副委員長
 大会事務局局長

会場準備

受付案内

○ 梶田 鵬翔
 ○ 飯田 鵬祥
 山中 清翔
 川添 鵬雄
 笹岡 鵬俊
 川添 鵬雄
 宝蔵 瑤光
 笹岡 鵬俊
 横山 熙光
 大野 正翔
 西山 匠貴
 西山 匠貴
 川添 鵬雄
 川添 鵬雄
 (屏風運搬)
 ○ 笹岡 鵬俊
 ○ 横山 熙光
 ○ 大野 正翔
 ○ 西山 匠貴
 ○ 西山 匠貴
 ○ 川添 鵬雄
 ○ 川添 鵬雄
 ○ 川添 鵬雄
 ○ 山中 清翔
 ○ 飯田 鵬祥
 ○ 川添 鵬雄
 ○ 宝蔵 瑤光

会費会計

接待

司会

会場進行

音響

記録広報

○ 飯田 鵬祥
 ○ 宝蔵 瑤光
 ○ 宝蔵 正
 森田 蓮光
 戸田 燁紫
 飯田 鵬祥
 松木 鴻光
 松代 伶翔
 戸田 燁紫
 笹岡 鵬俊
 大野 正翔
 横山 熙光
 西山 匠貴
 山中 清翔
 鎌田 耀紫
 川添 鵬雄
 戸田 燁紫

「風雅を楽しむ春の集い」 式典

〈敬称略〉

(一) 開会挨拶

山中清翔

(二) 鵬翔流吟友会理念朗読

先導

笹岡鵬俊

(三) 鵬翔流吟友会会詩合吟

先導

中西鵬篤

(四) 会長挨拶

梶田鵬翔

(五) 来賓挨拶
六六庵吟詠会高知県本部 本部長

上本竹永

高知県県議会議員・鵬翔流吟友会顧問

西内隆純

高知市市会議員・鵬翔流吟友会顧問

竹村邦夫

鵬翔流吟友会後援会 会長

近森憲一

第一部

合 吟

1 横倉山安德帝御陵を訪う

作者 梶田鵬翔

男 性

2 牧野博士の梅花黄蓮

作者 飯田鵬祥

女 性

第二部

絶句「風雅をつむぐ」(その一)

3 九月十日

作者 菅原道真

東 雲 教室

宝 蔵 正

4 汪倫に贈る

作者 李白

高 須 教室

鎌 田 耀 紫

5 胡隱君を訪ぬ

作者 高 啓

東 雲 教室

戸 田 燁 紫

6 八幡公

作者 頼 山 陽

宇 佐 教室

西 村 雄 紫

7 夜墨水を下る

作者 服部南郭

長 浜 教室

森 田 蓮 光

14	13	12	11		10	9	8
潮来を過ぐ	いしずえ	ああ松本城	武田節	第三部	事に感ず	啓蟄	富嶽
				歌謡吟詠			
作者	作者	作詞	作詞		作者	作者	作者
深田光靈	岩佐多歌子	小林哲聖	米山愛紫		于瀆	飯田鵬祥	乃木希典
南国教室	宇長 佐浜 教室	高須 教室	宇佐 教室		高須 教室	棧橋 教室	東雲 教室
西山匠貴	中西 鵬篤	川村 鵬泉	横山 熙光		川添 鵬雄	公文 松翔	松木 鴻光

15 荒城の月

作詞

土井晚翠

蒔絵台教室

松代怜翔

16 勸進帳

作詞

野村耕三

南国教室

笹岡鵬俊

第四部

来賓吟と舞

17 金剛山

作者

山岡鉄舟

四国漢詩連盟理事

内田紫紅

18 赤穂浪士

作詞

嶋淳平(舞)

土佐麗陽会

中平麗煌

19 八幡太郎義家

作詞

岩佐多歌子(舞)

土佐麗陽会

中城麗抄

20 白鷺城

作詞

市川昭介(舞)

土佐麗陽会

竹内麗岱

21 雪椿

作詞

星野哲郎(舞)

花柳流

中岡あき

鵬翔流吟友会会長

梶田鵬翔

第五部

絶句「風雅をつむぐ」(その二)

22 落花

作者 徳富蘇峰

高須教室

山村彩光

23 江南の春

作者 杜牧

東雲教室

宝蔵瑤光

24 中庸

作者 元田東野

高須教室

横山熙光

25 山行

作者 杜牧

宇佐教室

大野正翔

26 不識庵機山を撃つのに題す

作者 頼山陽

蒔絵台教室

松代怜翔

27 花を惜しむ

作者 福沢諭吉

長浜教室

川村鵬泉

第六部

(特別出演)

28 花笠音頭（山形県民謡）

宇佐民謡クラブ

中村美女子先生他 8名

吉市 澤 久保悦子 福岡和代

橋本五月 松谷扶紗子 久保ひろ子

中村知恵子 松岡美津子

29 弘道館賛歌

作詞 丘灯至夫 明德義塾高等学校
作者 徳川景山 日本クラブ詩吟部

第七部

構成吟詠「大和の桜」

30 和歌 青によし

作者 小野老 宇佐東雲教室内 中西鵬光

31 和歌 敷島の

作者 本居宣長 高須教室 山中清翔

32 九段の櫻

作者 日柳燕石 高南国教室内 川添鵬雄

33 芳野に遊ぶ（和歌入り）

作者 菅茶山 高須教室 飯田鵬祥

34 さくらさくら（日本古謡）

全員で

第八部

来賓吟と舞・会長・役員吟詠

(順不同)

35 舞 扇

作 詞 岩佐多歌子 宇佐教室

中西鵬鶯

36 関東春雨傘

作 詞 米山正夫(舞)花柳流

中岡あき
山中清翔

37 人生城

作 詞 石本美由紀 高須教室

川添鵬雄

38 雲 よ

作 詞 横井弘 高須教室

飯田鵬祥

39 我が道

作 詞 仁木葉子 鵬翔流吟友会会長

梶田鵬翔

40 桜花の詩^し

作 者 不詳 (舞)土佐麗陽会宗家

大崎麗蒼

41 流転山頭火

作 詞 岩田道之輔 六六庵吟詠会高知県本部
本部長

上本竹永

42 三百六十五歩のマーチ

閉会の挨拶

川添鵬雄